

都道府県番号	36
都道府県名	徳島県

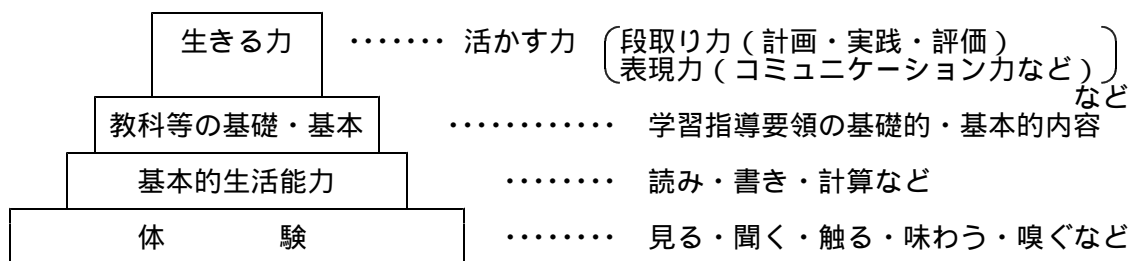
【 】

学校名及び規模

学校名	穴吹町立穴吹中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 12
学級数	1	1	2	1	5	
児童数	33	34	47	2	116	

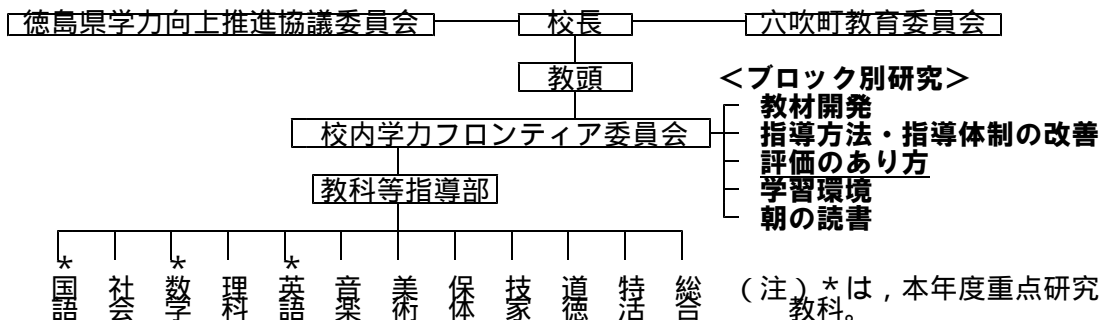
研究の概要

- (1) 研究主題
生きる力の育成をめざした基礎・基本の確実な定着
- (2) 研究主題設定の趣旨
平成14年度より、ゆとりの中で「生きる力」を育成することを大きなねらいとして、完全学校週5日制のもとで新学習指導要領が実施されるようになった。これにともない、授業時数が減少し、また、「総合的な学習の時間」の導入や選択教科履修幅の拡大などにより学習内容が3割削減され、全国的にも子どもたちの学力低下が懸念されている。
このような中、本校では、平成8年度より、TT指導の拡充など、指導方法の工夫改善に努めてきた。また、昨年度は、本校の生徒の実態を把握しながら、生徒に身につけさせたい学力を設定した。そして、本年度は「生きる力」の基盤となる基礎・基本の確かな定着を目指し研究を進めることにした。
また、学習成果は、単に教材の適否や指導法の善し悪しだけに左右されるものではなく、効果的な評価のあり方や学習環境などにも大きく左右される。そこで、本校では、の(1)のようにブロック別の研究推進体制を組織し、各ブロック独自の具体的な小テーマに基づいた実践研究を進めてきた。
なお、本校においては、学力を次図のようにとらえて研究を進めている。



生徒の学力の評価を生かした指導の改善

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際(「評価のあり方」ブロック)
ブロック別研究テーマ

指導と評価の一体的な在り方～次の指導・学習に生かす評価方法の実践～

研究項目

評価規準・判断基準・評価方法等評価計画の作成。

「毎日の生活チェックカード」の作成と活用。

ノートやプリントを使った評価方法の工夫。

定期的な「学習アンケート」の実施。

ＴＴによる評価方法（「シートチェックカード」等）の工夫と実施。

自己評価（「学びの足跡（下図参照）」等）の作成と活用。

学びの足跡(理科)		年 組 氏名					
(单元ごとに、このカードをお家の方にみてもらいましょう。)							
单元	学習内容(その日のテーマ・課題)	チャイム	準備物	宿題	態度	理解	クラス
78							
78							
				单元末テスト			
				点			

※ よくできた … A まあまあできた … B できていない … C
 ※ 授業態度の観点(決め方)
 聴き方 話し方 考え方 まとめ方(ノート)

自己評価			
1 学習した内容に興味や関心をもって取り組むことができた。	よくできた	まあまあできた	できなかった
2 授業でわからないところは自分で調べてみようとした。	よくできた	まあまあできた	できなかった
3 実験や観察にすすんで取り組めた。	よくできた	まあまあできた	できなかった
4 友達と話し合ったり、協力して活動できた。	よくできた	まあまあできた	できなかった
5 自分の考えを発表できた。	よくできた	まあまあできた	できなかった
6 学んだことを、日常生活のことと結びつけて考えようとしている。	よくできた	まあまあできた	できなかった

教科担任からのアドバイス	

担任印		保護者印
-----	--	------

(3) 研究の成果と課題(評価について)

成果

「学びの足跡」を活用するようになって、教師自身が毎時間の授業をふりかえり、指導方法を点検することができるようになった。「この单元ではどの生徒が苦手意識をもっているか」等の個に応じた指導を強く意識するようになった。

シートチェックカードを活用することで、複数の教員が一人ひとりの生徒について情報交換する機会をもつことができ、生徒の多面的理解につながっている。

自己評価カードは、毎日のできていてあたり前の部分を再点検する機会になった。生徒に、何を学ぶのかといった目標意識をはっきり持たせることができた。また、

目標がはっきりすることで、「何がわかって、何がわからないか」を知ることができるようになった。今までは、一つの内容がわからないとその小单元全体に苦手意識をもつことが多かったが、自分の理解できていないところをきちんと押さえることで、「わからないから、学習しない」という態度から、「わからないところを学ぼう」とする態度へと変化がみられるようになった。

指導者も、小单元の評価規準を再確認し、1時間ごとの目標をおさえて授業に臨むことができた。「この時間に、ここを押さえる」という目的意識を指導者がもつかもたないかで、授業は大きく変わることを再認識した。

課題

十分に「学びの足跡」をみる時間がもてなかったり、つまづいている生徒をカー

ドの中で発見したにもかかわらず、すぐに支援することができない場合がある。学校生活の中で、いかに時間と見つけだすかが今後の課題となりそうだ。1時間ごとの思いつきの評価ではなく、年間指導計画にそった評価規準「この単元では、こんな力を生徒に身につけさせなければならない」といった年間を見通した評価計画が必要となってくることを実感した。宿題や生活態度など、細かい点検を毎日行っているが、それがマンネリ化しているところがある。また、いつも同じ生徒が同じ事をつまずいていると、その手立てがつつい後まわしになることがある。常に新鮮な目でチェックできる工夫が必要であると思われる。

(4) 研究成果の普及の方策

学力向上フロンティアスクール研究発表会(平成15年11月21日)を実施し授業公開をするとともに、研究成果を「紀要」としてまとめて配布した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13学級～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

「学びの足跡」「シートチェックカード」「自己評価カード」などを活用して、様々な評価活動を行っていた。評価を教員の指導方法の改善に生かし、授業の質の向上に努力している。